

目標達成計画

作成日：平成 23 年 1 月 27 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	⑩ ⑱	職員からご家族への情報発信が少ない。ご家族の来訪時に職員から積極的に情報提供していく必要があるが、最近の様子やケアの状況について説明していない。また、ホームの様子についても情報提供が少ない。	担当者及び受け持ちの役割の遂行ができる。 あおば便りを発刊できる。	①キャリアパスにのっとり、入居者担当制の担当者の役割を遂行できるように指導をする。②個人目標をつくり、目標に対しての自己評価・他者評価を行う。③中間評価は7月11月に行う。④あおば便りは、お便りしやすい企画にレイアウトし、輪番制で発刊をする。	9ヶ月
2	⑳ ㉓ ㉗	ケアプランは計画作成担当者が作成しているが、職員全員がプランを意識して関わっていない。ケアプランが、真に利用者のためのものになるために、プランの意義について職員が理解する必要がある。	ケアプランが実践できる。また、プランの実践とつなげてモニタリングができる。	①現在行っているケアカンファレンスに加えて、担当者会議を強化する。②担当者会議を経て、担当者は計画作成担当者と連携してケアプランを作成する。③カンファレンス後やプラン修正後は、リーダーは必ず、申し送りで内容を伝達する。	10ヶ月
3	㉒ ㉖	年間行事と個別ケアプランを作成していく段階で、地域交流や連携の必要性が結びつくと考えられる。これまでは、ケアプランと地域との結びつきが遊離していたのではないかと考えている。	年間行事と個別ケアプランに地域との連携が盛り込まれる。	①計画作成担当者及び職員の計画作成上の力量を上げるため、職場内研修を実施する。②課題解決グループのひとつに行事企画グループを設ける。	6ヶ月
4	13	ケアプランの実践や若手を育てて行くためには、先輩のOJTが必要であるが、OJTが不足している。	各階層による役割が自覚でき、後輩指導ができる。	①キャリアパスにのっとり、階層別研修を開催する。	9ヶ月
5		外部評価後、直ちに次年度目標設定が全員で話し合う事ができていない。	全員で目標設定できるしくみづくりをする。	①階層別研修として「目標による管理」の研修を実施する。②外部評価後に次年度目標設定の話し合いができる勤務表を12月～1月に組んでおく。	2ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。